

平成30年度 第2回宮城県図書館協議会 会議録

- 1 日 時 : 平成30年12月13日(木) 午前10時30分から正午まで
場 所 : 宮城県図書館 研修室

- 2 出席者 : 佐藤 義 則 会長
柴 崎 悦 子 副会長
金 澤 寛 子 委員
佐 藤 初 美 委員
須 藤 尚 委員
千 葉 えり子 委員
中川西 剛 委員
宮 川 宏 委員

3 事務局等出席者の職氏名

館 長	蜂 谷 洋
副館長	日 野 和 典
企画管理部長	浅 野 恒 志
資料奉仕部長	石 川 俊 樹
企画管理部次長(総括担当)	牛 渡 丈 晴
資料奉仕部副参事兼次長(総括担当)	岩 間 美 樹
企画管理部総務班主幹(班長)	田 川 俊 之
企画管理部企画協力班主幹(班長)	伊 藤 亮 一
資料奉仕部一般図書班主幹(班長)	昆 清 悦
資料奉仕部資料情報班主幹(班長)	安 藤 祐 子
資料奉仕部児童・視聴覚班次長(班長)	佐 藤 耕 造

・オブザーバー

生涯学習課生涯学習振興班主幹(班長)	佐 藤 真 裕
--------------------	---------

- 4 委嘱状の交付
蜂谷館長から、金澤委員へ委嘱状の交付

- 5 傍聴について
牛渡次長から傍聴希望者がいないことを確認

6 開会

牛渡次長が本日委員8人の出席により定足数を満たし、会議が成立した旨の報告をし、開会を宣言

7 会長挨拶

本日は年末の御多忙の中、お集まりいただきましてありがとうございます。協議会開催に当たりまして、委員の皆様には日程調整に御協力いただきましてありがとうございます。本日の議題ですが、第1回のこの会議で御審議いただきました「第3期宮城県図書館振興基本計画」について、この計画に基づいて、現在、5年間の施策を展開しておられるところですが、初年度にあたる今年度ということで、各種の取組について、その成果をどのように評価とするか、どれだけうまくいっているか、あるいはそうではないかといったことについて、どのような方法で評価していくかということが議題となっております。若干、具体的なところが見えにくいところで議論を進めるということになるかと思いますが、どうぞよろしくお願いします。本日はどうもありがとうございます。

8 館長挨拶

蜂谷でございます。本日はお足元の悪い中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

本日の会議の趣旨につきましては、今、佐藤会長から御紹介がありましたので、私からはここ1か月ほどの当館の動きについて御紹介させていただきます。先月の11月10日ですけれども、第6回のビブリオバトルを開催いたしました。今年度は7人の発表者の方に、それぞれ御自分の推薦する本を発表いただきまして、30人ほどの聴衆がいたのですけれども、投票の結果、今年のチャンピオンの本には、「お待ちしております。下町和菓子 栗丸堂」という本が選ばれてございます。続きまして、先月の11月14日から3日間、北海道・東北地区の図書館の職員を対象とした研修会を開催しております。これは、北海道も含めて7道県で持ち回りで、開催してございまして、今年は宮城県が当番ということです。慶應義塾大学の糸賀先生の基調講演を手始めに、主に、大学の図書館学の先生方からの御講義をいただいております。参加者からは、最近の図書館界の情勢がよくわかるタイムリーな講義だったということで、感想をいただいております。続きまして、11月24日には、3月に当館が紫山に来まして、20周年を迎えたのを記念して、宮城県在住、中新田出身で現在泉区にお住まいの漫画家のいがらしみきお先生に御講演をいただいております。委員の皆様の中にも、御案内差し上げたところ3人の委員の方に御出席いただきまして、誠にありがとうございました。以上は、年度当初に予定されていたイベント等ですけれども、今年度、館内の実態を検討しまして、新たな試みとして、通路をはさんだ向かい側にありますホール養賢堂を、生徒・学生の学習室として開放してみようかということを考えました。これも、先月の17日に第1

回目の試行を行いまして、今月の２日、９日あと今週の１５日の土曜日に、行おうと考えております。毎回、アンケートをとっているのですけれども、やはり、静かなところで勉強が捗るという回答を得ておりますので、概ね好評なのかなと思っております。以上、ここ１か月ほどですけれども、当館の動きを御紹介させていただきました。先程、会長からの挨拶にもありましたが、本日は皆様の方からも多くの御意見、御助言をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

９ 配付資料の確認及び日程説明（牛渡次長）

<説明関係資料>

- ① 第３期宮城県図書館振興基本計画の評価方法について・・・・・・（以下、資料１）
- ② 宮城県図書館主要指標・・・・・・・・（以下、資料２－１）
- ③ 宮城県内の図書館情勢・・・・・・・・（以下、資料２－２）

<配布関係資料>

- ① 国土交通省観光庁資料
- ② ことばのうみ（No. ６１）

10 議長選出

図書館協議会条例第６条第１項により、会長である佐藤会長（以下、議長）を選出

11 会議録署名委員の指名

議長が須藤尚委員を指名

12 議事

○ 議長

それでは議事に入ります。「協議・報告（１）第３期宮城県図書館振興基本計画の評価方法について」事務局から説明をお願いします。

○ 浅野部長

「協議・報告（１）第３期宮城県図書館振興基本計画の評価方法について」説明いたします（以下、資料１により説明）。

○ 議長

はい、ありがとうございます。ただいま説明いただいた内容につきまして、御意見あるいは御質問等ございましたらお願いいたします。どんなことでも結構ですので、自由

に御意見，御質問いただければと思うのですが，いかがでしょうか？

○ 館長

補足させていただきますが，この第3期振興基本計画ですけれども，平成30年度から五か年計画になっております。最終ページに，その5か年の基本方針と目標，施策の方向性を，基本方針をもとに4つの目標があつて，例えば，目標1の下に方向性がございいます。目標1に対して，施策の方向性1，2，3，4というのが対応というような流れとなっております。施策の方向性1に対して，14ページをお開き願いたいのですが，施策の方向性1につきまして，主な取組と目標指標と構成事業の組み立てとなっております。それらに移したのが，シートの方の3ページ以下になります。それぞれの目標指標に対しては，数値的なものをこちらのほうで達成率を記入していく，あるいは，構成事業，図書館ネットワークシステム運営事業に対して，我々のほうでこういった実績を書いていく，これはあくまで予定ですけれども，こういった文章で我々のほうで書き足していく，あるいは，4ページに移りまして，それをもとに我々が順調であるか，概ね順調であるか，あるいは，ちょっと足りないなということを我々のほうで書いていきます。その次に，これも我々のほうでそれについて課題はこういったものがあるね，と書きまして，それについてさらに来年度は，こういったことで対応していきたい，ここまですが図書館側で書きます。それを御覧になった上で皆様のほうから，図書館側では概ね順調と言っているけれども，違うんじゃないの，足りないんじゃないかという意見をいただいてそれを3月に仮にまとめておきまして，また，来年度4月で最終的に確定しつつ，という大まかな流れになるかと思います。まずは，来年3月に我々のほうで，出す予定であるこのシート，この対応方針まで我々のほうで書きますので，それを御覧になって，図書館では順調と言っているけれども，ちょっとだめだよね，ということについては，厳しいお言葉でもいいですし，その評価は正しいということでもいいですし，その辺のことを3月あるいは来年4月に向けていただきたいということですので，よろしくお願いします。

○ 議長

何か御質問ございませんでしょうか。

○ 中川西委員

中身ではないのですが，評価というのを県図書館は準用ということであるので，公立の市町村図書館なんかでも，同じような評価をやられているものなのかどうかを，どんなふうに…。

○ 館長

望ましい基準ですので、緻密に全部の市町村図書館がやっているかという、把握はしていないのですけれども、一応そういったことをやりなさいよ、という文科省からの御指導ですので、それを我々のほうも検討してきちんとやろうということでございます。

○ 中川西委員

はい、分かりました。

○ 議長

柴崎さん、いかがですか。

○ 柴崎委員

いえ、特に。理解いたしました。

○ 議長

では、私のほうから。目標指標については、振興基本計画では、2つの数値を挙げていらっしゃるのですが、実際に利用があった図書館が何館であったとか、これから5年間のプロセスが大事になってくると思いますので、参加している図書館がこれだけあって、それが最終的に貸出冊数としてこれくらいの伸びになったというような、要するに他の数値についてもこの計画の数字にこだわらず、含めて書いていただけるほうが、分かりやすいのではないのでしょうか。それから、もうひとつ気になるのは、評価シートは基本的に簡略にまとまっていて良いと思うのですが、実際にはこの貸出事業にも市町村図書館等の連携強化に関しても、市町村図書館側でも事情といいますか、例えば、どういうニーズがあってどういう事情があって利用がうまくいかないとか、まずそこが我々としてももっとも知りたい材料になるのではないかと思います。それが、最終的な評価の時にうまくいっている、いっていない、あるいはこれは見込みがあるというような判断の元になると思います。そうしますと、評価シートの中にそういったプロセスといいますか、各館における事情であるとか、そういったことも書き込めるようにしていただくか、あるいはシートはシートでこのままにして、別添えとして簡単なもので結構ですので報告というか、簡単なコメントを付加していただくような、そういう形がとられると皆さん分かりやすいのではないかと思います、いかがでしょうか。

○ 館長

はい、分かりました。目標指標だけにこだわらずということなので、その辺の数値につきましては、例えば、構成事業の実績で書けるのであれば、この要所の中で取り込むとか、あるいは今仰ったように、このシートはシートとして別綴りで、根拠の元データとして何か違う冊子をつくるとか、それは今後考えていきたいと思っております。よろしくお

願います。

○ 議長

あまり御負担にはならない範囲で結構です。

○ 館長

はい、分かりました。

いずれにしても、文章を書くための根拠となる数値・データとして必要となると思いますので、できるだけ広く収集していこうと思います。

○ 議長

特に御準備いただいた評価例ということで、施策の方向、今は市町村図書館等との連携強化・支援についてですが、ほかにも実際には11の施策の方向性が21個示されておりますので、振興基本計画の中で示されている1の内容についてそれぞれどのように評価するのか、そこを含めて御意見あるいは御質問いただければと思うのですが。

○ 金澤委員

4番の「こどもの読書活動を推進するための環境の設備促進を図ります」とのことなんですけれども、夏休み親子ツアーというものがあまして、仙台は寒いので冬休みとか子どもが家に籠もりがちで、お母さん達もどこに連れていったらいいのかというのがあって、そういうときに冬休み親子ツアーというのがあるとすごく子どもをもつ親としては助かるので、冬休みツアーや春休みツアーなどがあるとすごく良いのではないかと思います。イベントがとにかくあると、図書館に足を運ぶきっかけになると思うので。

○ 館長

はい、分かりました。その辺は少し考えます。

○ 佐藤委員

数値目標を新たにできるだけ設けることにしたということで、非常に分かりやすく達成率などもできますので、非常に受け止め方としてはどのような方向にあるのかが分かりやすいので、非常に、魅力的で素晴らしいと思います。毎年評価も行うということで、こまめに見直しをされるということだと思うのですが、そうするとその数値が出てわかりやすくなった分、数字の受け止め方みたいなものが今度は、どう受け止めたら良いんだろうと思われる方がいらっしゃるのではないかな、と。例えば、達成率96%というときのそれは最終的に100%を超えたというときには非常に目標達成して素晴らしいと思うんですけれども、例えばそれは同じような規模のやはり県図書館の中

では例えばどのぐらいなんだろうとか、それぞれ地域の御事情があると思うので、単純に比較はもちろんできないと思うんですけども、もしその全国的な傾向の中でもこういう部分が突出している、宮城県図書館が頑張った点であるとか、そういったことがもし分かるようであれば、どこか備考欄等に補足いただけると非常に受け止める方も、そこは宮城県図書館の特徴なんだなとかそういうところは分かりやすいかと思いました。

○ 館長

はい、ありがとうございます。数値的なところにつきましては、全国的に同じように取っているわけでもなくて、その館独自のものもあるかと思いますけれども、統計上、共通なものがあるのであれば、その辺は数値を収集して、全国的にどうなのかということが文書のほうなんかでも示していきたいと思います。確かに、今委員が仰ったように、達成率が100を超えれば、それはそれでいいでしょうけれども、やっぱり例えばそれが、90割った80割ったというものでも、それが何なのかというのも裏のページで、理由とか文章としてできるだけ分析して次年度以降の対応につなげていければと考えてございます。

○ 千葉委員

2番に「県内図書館等職員の資質・能力の向上を図り…」という項目があるんですけども、素朴な質問で申し訳ないのですが、図書館で働いている方というのはすべての方が司書の免許があるわけではないですよね？

○ 館長

はい、現状ではそうです。

○ 千葉委員

そうですね。それで、私が多賀城のTSUTAYA図書館（正式名称は多賀城市立図書館）が開館したときに、働きたいなと思って行ったことがあるのですが、やはり司書の免許を持っていたほうが望ましいというような形で断られてしまったのですが、実際こういう研修会というのは、図書館で働く方の研修会というのはどういうことをされるんですか？

○ 館長

図書館の一般的な業務について、図書館の中で計画してやるのもありますし、あるいは、外部、例えば国立国会図書館でやっている研修を受けるとかそういった外部の機関が主催する研修を受けることもあります。

○ 千葉委員

「それは1番何が大事ですよ」ということで、研修会というのは催されるわけなんですかね。

○ 館長

御存知のとおり、図書館それぞれの分野分野でいろんな業務がありますので、どれが一番というのはなかなかありませんけれども、自分で足りないものがあれば、それを受けに行くとかそういった感じでやっているかと思います。

○ 千葉委員

分かりました。

○ 中川西委員

評価例のシートの作りなのですが、裏面が大事だと思うのですね。ここが1番大事なのではと。それで、シートですので概ね順調などというのを最初のほうのどこかに入れるというか、後ろを見ないと分からないので。施策の方向性、1についてはこうだけでも、取組評価は概ね順調、といったようなものがあって、下に構成事業の実績というのがあるんですが、これは根拠の一つであると思うのですが、分からないですけれども、順番的には、構成事業の実績を後のほうに置いて、裏面のものを前に持ってくると、まず目にとまるのは、1ページ・1枚目の表なものですから、説明するときも便利かなと思いつつ。そして、根拠として構成事業の実績はこのようになっております、というような形ではどうだろうか。せっかく褒めてもらうのであれば…それとも順番等は決まっているのでしょうか？

○ 副館長

県の方でもですね、いろんな評価事業がありまして、だいたいこんな感じの流れになっていると思います。委員が仰るとおり、最初、事業が実績の後ろに置いてます。いろいろ検討しました結果、説明の順番といいますか、この順番にしたほうが説明しやすいのではないかとということで、今はとりあえずこんなかたちになっております。この辺はまだ確定した訳ではありませんので、見にくいということであれば、まだいくらでも直せます。

○ 中川西委員

分かりました。

○ 館長

流れとしては、取組みがあつて、指標があつて、構成事業があつて、実績があつて、それらを踏まえた上で、概ね順調ということで、それを具体的に言えば、これこれこうですよ、課題はこうですよ、来年度こうしますよ、っていう感じで、とりあえずここまですを我々で作って、繰り返しになりますけれども、それについて、皆様から意見をいただくという流れになりますので、よろしくお願いします。

○ 中川西委員

ありがとうございます。

○ 須藤委員

非常に自分自身も勉強になるなと思いながら、この評価方法を見させていただきました。第2期の前回御提出いただきました最終評価が正直予備知識があまりない中で見たときに、項目が非常に多く、なんとなく自分の中で全体像が掴みにくいなと思っていたのが、今回この11という項目で行うということは、評価というものの在り方としては非常に良いのではないかなと思って見ておりました。ただ、やっている事業の中身自体は減少している訳ではないでしょうから、単に11に絞れたけれども、羅列の項目が多くなっているという形で評価がなされることがなるべくないように、本当に11の視点で総括するといったところを是非、4ページ分に相当するところになると思うのですが、そのような盛り込み方でやっていただければ非常に良いなと思います。

○ 館長

根拠となるものは、3ページの構成事業についてのそれぞれの実績が根拠になると思いますけれども、それらをどうやって文章として表現するかというのは、4ページの理由になると思います。その辺はちょっと文章等を工夫したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○ 柴崎委員

感想的なものになってしまいますけれども、とてもよくお考えになられているかなと思いました。今まで皆さんが仰ったことに付け加えて、さらに良くなっていくのではないかなと思うのですが、うまく評価をするために事業を行うことがないようにだけお願いします。

○ 館長

評価を何のためにするのかというと、4回以上課題あるいは対応方針、次年度どうしていくかということが基本ですので、主客転倒にならないというか、主旨をきちんと踏まえて、何のために評価をやるのかということは、考えながら評価をしていきたいと思

いますので、よろしくお願いします。

○ 議長

はい、その他ございませんか。すみません、私のほうから1点だけありまして、振興基本計画の21ページに、「5 多様な資料・情報の提供に努めるとともに、県民の課題解決を支援する図書館を目指します。」とあって、目標指数としてレファレンス事例の公開数、それから講座の参加率があげられています。これ自体は適切かと思うのですが、加えてレファレンスサービスの提供件数であるとか、あるいは市町村図書館や他の図書館からのレファレンス協力依頼への回答件数といったことも、関連するのだらうと思うのです。ただし、その際にこの5のところの課題解決に入れるのか、あるいは1の『市町村図書館等との連携強化及び支援の充実』に含めるのか。要するにレファレンスサービスが宮城県全体に対して提供したときに、どっちにあたるのかというようなことが、あるいは両方に含めても構わないとは思いますが、その辺りのことはどうされるのかというある程度見極めといいますか、あらかじめ検討された上で御作成いただくことが必要なのかなと思います。それは、例えば、県内全体でも図書館の全体での宮城県図書館だけではなくて市町村図書館あるいは学校図書館を含めた全体の活性化というような宮城県図書館の目標であるということですから。指標として全体を見るような、押し量る指標がゆくゆくは必要なのではないかと思います。それもあわせて御検討いただければありがたいなと思った次第です。

○ 館長

必ずしもですね、その方向性、指標、構成事業がそれぞれ独立している訳でもなくて、例えば、ひとつの事業がですね、複数の施策の方向性にまたがっているということもありますし、その辺は整理しながら、評価あるいは、表現の方法を考えていきたいと思います。

○ 議長

はい、ありがとうございました。では、御質問、御意見も概ね出尽くしたという感じでございますので、事務局から御提案いただきました「第3期宮城県図書館振興基本計画の評価方法」につきましては、御審議いただいた方法に基づきまして、今年度ごとの評価を行っていただくことにしたいと思いますが、御異議ございませんでしょうか。はい、それでは、ありがとうございました。続きまして、協議事項「(2) 県内図書館の状況について」事務局から説明願います。

○ 浅野部長

「(2) 県内図書館の状況について」説明いたします。

(以下、資料 2－1・2－2 により説明)

○ 議長

ただ今の御説明につきまして、御質問がございましたら、お願いいたします。あるいは、宮城県図書館に対する御意見ということでも構いません。それでは、時間もございますので、できましたらお一人ずつ、御質問、御意見いただければと思うのですが、いかがでしょうか。

○ 千葉委員

先ほどの資料「宮城県内の図書館情勢」の 14 ページの直近 10 年の動きで、涌谷町や女川町の、女川つながる図書館ですとかワクワク来ぶらりも、ネーミングが良いなとすごく思いました。あったかい感じが。私は、この県立図書館が家から遠いという事もあって、また特別な図書館という認識が自分の中にあったせいか、あまり来たことがなかったのですが、どうしても堅いイメージが県立図書館にはあるので、もしかすると「みんなの図書館」とか変えたりすると、親近感がわくのかなと思いました。

○ 館長

愛称というか、そういった募集もすればいいかなと思いますけれども、ここは宮城県図書館という名前で行きたいかなと、思いますのでよろしくお願いします。

○ 中川西委員

前回もお話申し上げたかもしれないのですが、複合型という新しい図書館が増えているのですが、やはり県図書館もお考えだと思うのですが、子ども図書室もあるとは思いますが、さらに改善というような、特に 1 階にあるイベント広場のようなものができるの良いかなと思います。学校の生徒を連れてきて、例えば、一週間は田尻さくら高校が当番で、夏休みを運営します、とか。何かそういうイベントができそうな空間があってもいいのかなと思いました。

○ 館長

はい、ありがとうございます。1 階のエントランスホールでも、これまでもいろいろと手を介し、いろいろやっているんですけども、中々 PR がうまくいなくてですね、来館者数の増加につながっていないんですけども、前回も言いましたが、我々の図書館はいいことはやっているんですけども、中々それをうまく外に伝えていないところありますので、その辺は今後も PR に努めていきたいと思います。それと、学校もですね、同じ図書館ですけども、地形広場といって、若干下がった階段状のスペースがあるので、そこも、ここができた当初はいろいろイベントをやっていたような

ので、ここ数年そういったことが途切れているのですけれども、そういった社会教育面のイベントもですね、できればなあと考えております。あとは、小学校・中学校・高校それぞれのいわゆる職場体験も受け入れていますので、ぜひ、あるのであれば、御応募いただければと思いますので、よろしくお願いします。

○ 議長

その他、ございませんか？

○ 宮川委員

基本的なことでもいいですか？この職員数というのは、大体同じくらいの規模の図書館の中では、だいたい多いですか？少ないですか？

○ 館長

宮城県図書館ですね？

○ 宮川委員

はい。あとその中に含まれている構成率の司書さんが、大体3割から4割なんですけれども、同等の県立図書館に比べて構成率が高いのか低いのか。

○ 館長

手元に資料はないのですけれども、職員総数としてはですね、どちらかというと多い図書館になっているかと思います。そのうちの司書数なんですけれども、40%というのはですね、非常勤職員も含めてなんですけれども、決して少ない数字ではないのかなとは思ってます。ただ、どうしてもここで正規職員で40人中11人ということは、我々の公務員というか、行政機関ですので、人事異動の中でどうしても司書以外の人間が、私もそうですけれども、そういった人間が来てしまうということは、ありますので、ただ、それにつきましても、それまでいた司書、現在の司書、あるいは、自分で図書館に来た以上、本来の職務とまではいかないまでも、がんばるということで、各々、研修とかですね、自己研鑽を積んでるということで、相応の成果は出しているのかなと、考えてございます。

○ 議長

よろしければ、先ほどお話がありました名取市図書館が開館が近いということですので、柴崎委員のほうから御紹介いただければと思います。

○ 柴崎委員

紹介の前に一つ、7ページに人口一人当たりの資料費がございまして、名取市が全国平均より上のところに今ありますが、新しい図書館のために臨時的な資料費がついていて、再来年の資料費はひょっとしたらランク外になってしまうかもしれないのですが、ランクインするように今年も資料費の獲得を頑張りたいとは思っています。

先ほどのお話にもありましたように、いよいよ来週19日（水）に名取市の新しい図書館がオープンいたします。先ほども御紹介していただきましたように、名取駅の東口出てすぐ目の前に1分もかからないところに、複合ビルができて改札からデッキでつながって、まっすぐ図書館に入れるという所にできました。前回の協議会の際にもお話ししましたが、9月1日から休館させていただきまして、10月31日に建物の引渡しを受けて、11月から本の移動それから備品の搬入というのを行ってきて、今は直前の準備の真っ最中ということで私も今自分の館のことで頭がいっぱいの状況でございます。新しい図書館ですけれども、今まで使っていた仮設の図書館よりもかなり広くなりまして、ワンフロアが1,500㎡、ツーフロアありますので3,000㎡とかなり大きな建物になりました。今回の施設の売りとしましては、3階の一般の利用者を対象にしたフロアに、200㎡の郷土資料室を作りまして、そこでいろいろな名取の情報を発信するというとても素敵なコーナーができましたので、是非お越しになった際はこちらも御覧いただければと思います。本日、NHKのてれまさむねで5分程度ですけれども、名取市図書館を中継いただくことができましたので、是非お時間がありましたら御覧になっていただければと思います。以上です。

○ 議長

はい、ありがとうございました。その他、よろしいでしょうか。それでは、続きまして「(3) その他」に移らせていただきます。事前に委員から話題提供などありましたでしょうか。

○ 浅野部長

それでは、私のほうから情報交換「質問事項」について、御説明したいと思います。
(配付資料1により千葉委員からの質問事項について説明)

○ 議長

はい、ありがとうございます。千葉委員、今の御説明でよろしいですか。

○ 千葉委員

私は、その本が今どうなっているのかが気になっていまして。実は、私はこの頃（平成22年）に小学校の図書室で働いていたのですけれども、この嵐の本（ニッポンの嵐が2冊届きまして、普段はそんなに図書室に来ない子ども達が、その本が来たおかげで

毎日毎日「本を見せて見せて」と大パニックでした。それがインターネットで高く売れているという噂もあって、嚴重に鍵をかけて1冊は職員室、1冊は図書室の鍵をかけた部屋にしまっていました。その本の中を見ると、嵐が日本中旅していろいろな所で頑張っている人達の仕事を一緒にしたりという本だったんですけれども、子ども達は嵐の写真が見たいわけですから、文章を読まないわけですね。その本が今、どうなったのかなという。それをどなたか覚えていらっしゃる方いませんか。本当に嵐のように過ぎ去ってしまった本なんですよね。誰も覚えてないですかね。

○ 議長

誰も、御存知ないようです。

○ 浅野部長

学校の本はお聞きしていないので、どういった状況かというのは分かりかねるところであります。

○ 千葉委員

そうですか。それは残念です。

○ 浅野部長

こちらの本は、学校のほうしか行ってございませんので、こちらの県図書館にも蔵書はしてございません。

○ 千葉委員

そうだったんですか。学校だけに来た本だったんですね。

○ 浅野部長

当時、非売品で学校だけに配布されたということになってございます。ただ、現在ではネット上で会社のほうから買うことはできることになっているということまでは確認できます。

○ 千葉委員

そうだったんですね。ありがとうございます。

○ 議長

それでは、その他、全体を通してその他ということですので、御質問等ございましたら、お願いいたします。

御質問がないということですので、以上で予定をしていた議事は終了させていただきますが、この場で何か、委員の皆様から他に何か御意見等がございましたら、お願いいたします。

○ 佐藤委員

感想ですけれども、先程の県内の図書館の状況の中で、震災で被災をした図書館が少しずつ開館をされているということに、私も地元が気仙沼なので、非常に嬉しく思っております。また、新しいところに行けてないのですけれども、どうかなと思って、Webサイトを見て貸出のトップ10みたいなランキングみたいなものがあるんですけれども、そこを見ると、ちゃんと他の地区でも読まれているような人気があるものがやっぱり、同じように上位に来ていて、同じように図書館を楽しんでくれているんだなと分かったので、非常に1人で感激しております。ただ、これからいろんなノウハウとか、失われたものもあるのかなと思うので、これからの蔵書の作り方であるとか、イベントの催し方であるとか、他の公共図書館さんなどのノウハウですとか、県図書館からの御助言と御支援を引き続きお願いできればと思います。

○ 館長

私も平成25・26年度と気仙沼市の事務所の方に単身赴任しております。気仙沼市の図書館は何回か行っておりました。山の上にあるので、津波はかぶらないのですけれども、揺れたものですから、空調とかいろいろ壊れてて、夏行くと暑かったのを覚えています。確かに、図書館ができあがって、私はまだ行っていないのですけれども、今度行こうと思います。それと、今、委員が仰ったように、気仙沼市に限らず、市町村図書館へのですね、バックアップというか、支援は今後続けていくのでよろしく願います。

○ 議長

その他、よろしいですか。

○ 宮川委員

もし分かればいいのですが、県内の図書館情勢の中で一人当たりの蔵書数が、加美町が断トツで多くて、個人貸出数も多いと。他の市町村では必ずしも蔵書数が多いからといって貸出数が多い訳ではないようなのですが、加美町さんがこういう形で非常に利用状況が活発なのは、理由があるのか、もしお分かりであればそれを教えていただきたい。

○ 館長

誰か分かる人いますか。加美町がこれだけ資料費も多い訳。

○ 宮川委員

個人的に、昔ここはいがらしみきおさんの出身地で、移動図書でぼのぼの号というのがよく走っていたので、もしかしてそれが理由かもと、個人的には思うんですけどね。かなりそういう意味で、加美町だけが県内の理想的な形なのかなと。何らかの参考になるのかなと思って。

○ 館長

分かる範囲で、調べてみたいと思います。

○ 会長

できましたら、次回の協議会で再度、3月ということですので、御報告いただければと思います。

○ 金澤委員

返却なんですけれども、ここで借りた本を県内どこの図書館でも返せるというのは、私が聞いたところによると、お母さんたちが週末に買い物に来てて、お父さんと子ども達が子ども図書館に来るとというのがすごく多いみたいなんです。それでこのまま借りたいといっても、ここに返さなきゃいけないから、遠いからダメだよ、ということが多いようで、これはもっと小学校とかに県図書館の本は返せるんだよというのを、もっと告知するともっといいのかなと思います。

○ 館長

ありがとうございます。先程、言いましたように、当館はいいことやっているんですけれども、中々PRが行き届いていないところがありますので、その辺は委員が仰ったように、ある程度ポイントを絞ってやってみたいと思いますので、よろしくお願いします。

○ 金澤委員

ありがとうございます。

○ 議長

その他、委員の皆様よろしいでしょうか。事務局から、何かございますか。よろしいですか。それでは、以上を持ちまして、議事を終了させていただきます。円滑な議事進行に御協力いただきまして、ありがとうございました。

(議事終了)

13 その他確認事項

○ 牛渡次長

委員の皆様には、寒い中、そして御多忙の中、本日御出席いただきましてありがとうございました。以上を持ちまして、平成30年度第2回図書館協議会を終了させていただきます。

なお、次回の協議会につきましては、審議の中でもお話させていただきましたけれども、年明け3月頃を予定しております。その際、また、日程調整等をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。本日は、どうもありがとうございました。

閉会